



Zephyros 96

版画家レンブラント 挑戦、継承、インパクト

会期：2026年7月7日[火]－9月23日[水・祝] | 会場：企画展示室



1



2

- 1 レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン
《百グルデン版画》1648年頃
エッチング、ドライポイント、ビュラン/和紙 国立西洋美術館
- 2 表紙(部分) レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン
《書齋の学者(ファウスト)》1652年頃
エッチング、ビュラン、ドライポイント 国立西洋美術館
- 3 フレデリック・レガメ『エッチングのバリ』誌ポスター 1875年
リトグラフ/青色紙 レンブラント・ハウス美術館
- 4 レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン
《窓辺でエッチングを制作する自画像》1648年
エッチング、ドライポイント、ビュラン/中国紙
レンブラント・ハウス美術館
- 5 アンリ・マティス《版画を彫るアンリ・マティス》1900-03年
ドライポイント 国立西洋美術館



3



4



5

17世紀オランダの代表的画家レンブラントは、版画家としても美術史に重要な足跡を残した人物です。レンブラントが手掛けた版画技法は、エッチング(腐蝕銅版画)というものでしたが、彼がその制作に着手した17世紀初頭、同技法は歴史的な転換点にありました。以前のエッチングは、銅板に直接線を刻んで原版をつくるエンブレーヴィングの代替手段とみなされ、その規則正しい線描の再現が目標とされていました。ところが、当時、新たにエッチング制作に参入したオランダの作家たちの多くは、版画家としての教育を受けた経験のない画家たちであり、おそらくそのような事情も作用して、彼らの中からエッチングならではの表現を追究する動きが生まれます。これら萌芽して間もない革新的試みを自作に取り入れ、大きく発展させたのがレンブラントでした。

レンブラントは、キャリアの初期から晩年までほぼ一貫してエッチングを手掛け、多様な主題による膨大な作品を残しました。当時のオランダでエッチングに取り組んだ作家の多くが、キャリアの一時期に少数の作品を制作するにとどまり、扱う主題の幅も限定的であったことを考えると、これは例外的であったと言えるでしょう。彼はその制作において、多様で自由闊達な線描から、陰影のグラデーションに富むビロードのような肌理の表現まで、エッチングの可能性を突き詰めました。また技法の探究と並行して、その効果を引き出すための素材にもこだわりました。柔らかなインクのにじみの効果を生むドライポイントの導入や、東洋紙への印刷もその一端です。

レンブラントのエッチングは同技法のあり方を変え、同時代および後世の作家たちに大きな影響をもたらしました。17世紀には、とくにイタリアで、デッラ・ベッラやカステリオーネのように、レンブラントのエッチングに創造的に感化を受けた作家が輩出されます。続く18世紀には、ドイツの作家たちを中心にレンブラントのエッチングへの関心が高まりました。そして19世紀には、近代の精神にふさわしい技法としてのエッチングに対する再評価——エッチング・リヴァイヴァル運動の中で、版画家たちのみならず文学者や批評家からも大きな注目を浴びることとなりました。20世紀以降もレンブラントの影響は衰えることなく、マティスやピカソらが、巨匠へのオマージュとなる作品を残しています。

本展は、このようなレンブラントのエッチング制作とその影響を見ていく企画です。レンブラントがかつて暮らした家を利用したアムステルダム・レンブラント・ハウス美術館の全面的な協力のもと、国立西洋美術館の所蔵作品、および国内外の美術館、図書館、個人コレクションからお借りした作品、資料を合わせて約130点より構成されます。

[国立西洋美術館主任研究員 中田明日佳]

神話、寓意、祝祭

—ルネサンスからバロックにおけるイタリア宮廷と版画

会期：2026年6月30日[火]—10月12日[月・祝]

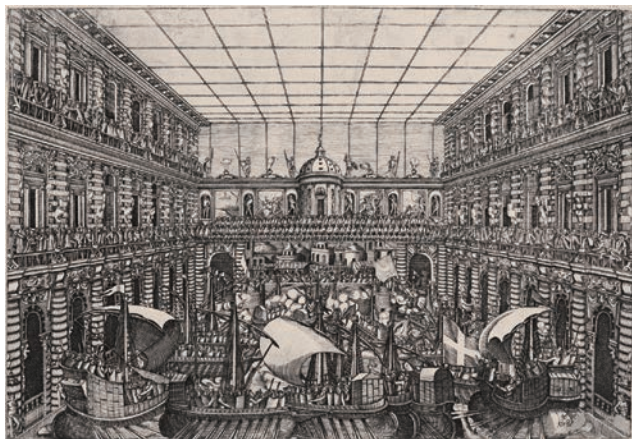
会場：版画素描展示室

ルネサンス期のイタリアでは、古典古代への関心の高まりと人文主義の広がりを背景に、ギリシア・ローマ神話の神々のイメージが復活し、宮廷文化のなかで多彩に表現されるようになりました。これらの図像は人文主義的な古典解釈のもと寓意として読み替えられ、とりわけ宮廷祝祭という儀礼的空間において政治的・象徴的役割を担うようになります。本展では、ルネサンスからバロック期に制作された神話や寓意、宮廷祝祭のイメージを、当館所蔵の約50点の版画作品を通して辿ります。

15世紀後半、イタリアにおいて銅版画の制作が本格化すると、古代の神々や象徴体系に由来する図像も主題として取り入れられ、流通するようになりました。16世紀にはローマを中心に、ラファエロらの作品に基づく複製版画が盛んに制作され、マルカントニオ・ライモンディをはじめとする版画家が活躍します。これらの版画の多くは、神話や寓意の解説を前提とし、人文主義的素養を備えた鑑賞者や収集家を主な対象としていました。

同時期には、邸宅装飾の図案を示す装飾版画が広く流通し、芸術家や職人の視覚資料として用いられます。さらに、宮廷祝祭を記録する出版物においても版画は重要な役割を果たしました。とりわけフィレンツェのメディチ宮廷では、君主像や紋章、神話や寓意が組み合わされた祝祭の情景が版画化され、華麗な宮廷文化や都市の活気を伝えるとともに、君主を称揚するメッセージを他都市の宮廷へと広く伝える役割を担いました。

本展では、初期銅版画の古代風図像や、古代彫刻に学んだマンテーニャの造形に始まり、ローマやマントヴァにおいて展開した複製版画、装飾文様や工芸品の図案、ジャック・カロら宮廷版画家による祝祭の描写まで、イタリア宮廷文化の知的・美的潮流のなかで生み出された世俗的イメージを紹介します。これらの作品群を通して、神話、寓意、祝祭が相互に結びつきながら展開する様相をご覧ください。 [国立西洋美術館研究員 朝倉南]



オラツィオ・スカラベッリ《ピッティ宮中庭における模擬海戦》(「トスカーナ大公フェルディナンド一世とクリスティーヌ・ド・ロレーヌの結婚式」より) 1589年 エッチング 国立西洋美術館

特集展示 クロード・モネ没後100周年

会期：2026年7月22日[火]—9月23日[月・祝]

会場：常設展示室（新館2階）



クロード・モネ《睡蓮》1916年 油彩、カンヴァス 国立西洋美術館 松方コレクション

印象派を代表する画家クロード・モネ(1840-1926)は、こんにち世界で最も親しまれている芸術家のひとりでしょう。今年2026年は、この画家がその長い画業と生涯を閉じてからちょうど100年にあたります。これを記念して当館では、《睡蓮》や《陽を浴びるポプラ並木》をはじめとするモネ・コレクションを常設展示室にて一挙公開します。

西洋美術館とモネとの出会いもまた、実業家の松方幸次郎(1866-1950)が晩年の画家をジヴェルニーを訪ねた1920年代に遡ります。西洋美術を紹介する「共楽美術館」の構想を温めていた松方は、パリにいた姪夫婦(黒木竹子・三次)やロダン美術館学芸員レオンス・ベネディット、さらに日本人画家たちの協力を得て段取りを整えたうえで、1921年初夏、黒木夫妻を伴いモネとの初対面を果たします。同年9月には美術史家の矢代幸雄と洋画家の和田英作とともに、再びジヴェルニーを訪れました。こうして《睡蓮》をはじめ十数点を画家から直接購入した松方は、ほかにも画商などを介して最終的に30点以上のモネ作品を手に入れます。戦後、仏政府が接收した松方コレクションの受け皿として設立された当館には、松方由来のモネの絵画が現在12点伝わっています。

本特集展示では、1959年の開館後に加わった購入・寄贈・寄託作品も合わせた20点近くのモネ作品が一堂に会します。そのなかには保存上の観点から展示頻度が少ない素描や、近年寄託された絵画も含まれています。この機会にぜひ、モネの描く風景に囲まれながら、移ろう光や揺らめく水面に心をたゆたえてみてください。

[国立西洋美術館主任研究員 袴田紘代]

2026年度 Collection in FOCUS

クリムトとガッレン=カッレラ

— 接続点としての世紀転換期ウィーン

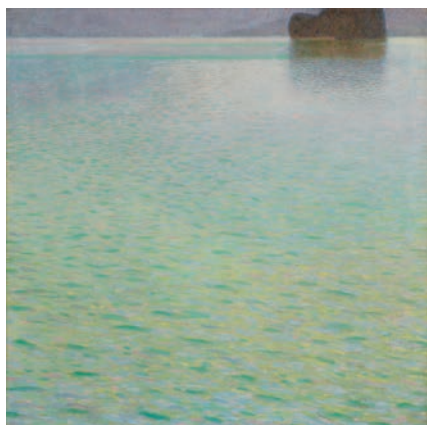
世紀転換期のウィーン——それはじつに稀有な、芸術や思想の実験場でした。そして、きわめて多層的な文化を育んだ当時のウィーンは、国境を超えた画家たちのネットワークの接続点ともなっていました。近年、ヨーロッパ各国で強い関心を集めているその事象を問うさいに主役となるのが、国立西洋美術館でご覧いただくことのできる、ふたつの特筆すべき風景画の作者——つまり、グスタフ・クリムトとアクセル・ガッレン=カッレラです。

当館は昨年、ウィーン分離派の主導者であったクリムトのたいへん貴重というほかない絵画《アッター湖の島》、および重要な初期素描3点の寄託を受けました。また、これにさきだち、われわれは2021年度にガッレン=カッレラの主要作のひとつである《ケイテレ湖》を購入していました。このCollection in FOCUSでは、おもにクリムトの前半期の活動を実作品とともに跡づけながら、彼が世紀転換期のウィーンにおいて、フィンランドの近代美術を代表する画家ガッレン=カッレラと出会い、ふたりがおそらくは双方向的に刺戟しあったことを詳細に分析します。この関係を紐解くうえで、いままさに国際的に注目されているのが、クリムトの《アッター湖の島》とガッレン=カッレラの《ケイテレ湖》にはかなりません。最新の研究では、前者が後者に影響を与えたと考えられています。それらの絵画を併置し、歴史的な検証を東京でおこなうことができるのは、クリムトの作品群を寄託してくださった方のおかげです。ここに記して、御礼申し上げます。 [国立西洋美術館主任研究員 新藤淳]

Collection
in
FOCUS

[2026年度ラインナップ]

- 「真正なイメージ」がさまざまな絵になるとき——変奏されていった「ヴェロニカの聖顔布」の表象(本館2階)
- クリムトとガッレン=カッレラ——接続点としての世紀転換期ウィーン(新館1階)



グスタフ・クリムト
《アッター湖の島》
1901-1902年頃
油彩、カンヴァス
個人蔵

世界遺産登録10周年

2016年7月17日、第40回世界遺産委員会において、3大陸7カ国の17資産「ル・コルビュジェの建築作品——近代建築運動への顕著な貢献——」が、世界遺産一覧表に記載されました。これらの資産は、人類の創造力を示す傑作であり、世界中で価値観の交流を生みながら20世紀の建築や社会の課題にすぐれた答えを示したものとして認められ、国立西洋美術館は「近代建築の5つの要点」「無限成長美術館」の思想を体現していること、日本における近代建築運動に大きく貢献したことが評価されました。以降10年の間には、ル・コルビュジェの設計意図がわかりやすくなるよう前庭を創建時の姿に近づける工事を行い、建てられた当初の目的である美術館として使用しながら、資産の保護・維持に努めて参りました。7月1日より7月31日は世界遺産登録10周年期間として、写真家・瀧本幹也氏と国立西洋美術館・田中正之館長の対談や、通常は公開していないエリアの特別公開も予定しています。これらの記念企画の詳細は6月中旬に公開いたしますので当館公式サイトをご覧ください。 [国立西洋美術館主任研究員 福田京]



「おしゃべりOK! Kawasaki Free Sunday」はじまります。

会話を楽しみながら、どなたでも気軽にそれぞれの鑑賞スタイルで美術館を満喫できる日として、ご好評いただいていた「にぎやかサタデー」。未就学児をお連れのお客様がゆったり鑑賞していただける「ベビーデー」。今春からイベントに込めた想いは変わりなく、より多くの方に機会を提供できるようリニューアルいたします。今後は、原則毎月第2日曜日に設けている常設展を無料で観覧いただける日「Kawasaki Free Sunday」のうち年4回を、声の大きさを気にせず会話いただける「おしゃべりOK! Kawasaki Free Sunday」として開催いたします。これまで年1回の開催に合わせて来館いただいていたところ、頻度を増やすことで、より日常の延長として、「おしゃべりOK!」デーに足を運んでいただきやすくなりました。また、開催月ごとにテーマを設け、4月は「ゆっくり見る」ことを推奨し、7月は「for kids」、10月は「for baby」、12月は「みんなで楽しむクリスマス」と、各回違った楽しみ方をご提案する予定です。(詳細は当館公式サイトやSNSで随時お知らせします。)

美術館に普段あまり行かない方も、お子様連れの方も大歓迎です。本企画をご活用いただき、作品を鑑賞する驚きや喜びをぜひご体感ください。

[国立西洋美術館経営企画・広報渉外室
矢口理来]



[CAFÉ すいれん]

営業時間：10:00-17:30 (食事11:00-16:45L.O. | 喫茶10:00-17:15L.O.) / 金・土曜日10:00-20:00 (食事11:00-19:10L.O. | 喫茶10:00-19:30L.O.)

※ 食事の提供時間は時期により早まる場合があります。詳しくは館内の掲示をご確認ください。

[ミュージアムショップ]

- モネの《睡蓮》を大きくあしらった折りたたみ傘は、晴雨兼用で日常使いしやすい実用品です。

黒の遮光生地を外側に使用し、内側に作品を分割することなく、全面に一枚の絵画が広がるように配置しました。傘を開くと頭上いっぱい睡蓮の世界が広がります。どんな天気でも、お気に入りの絵画作品の下で心地よく過ごしていただけるように考えた傘です。

- 国立西洋美術館の世界遺産登録10周年に合わせ、本館外壁をモチーフにしたピンズを発売します(2026年7月予定)。ル・コルビュジエのモデュロール(黄金比と身体サイズを元にして作った建築の寸法)にのった外壁パネルの比率をそのまま小さなピンズに落とし込みました。埋め込まれた玉石も当館ならではの特征としてデザインしました。

1,2
晴雨兼用折りたたみ傘
6,820円(税込)
使用作品：クロード・モネ《睡蓮》
3
国立西洋美術館本館外壁ピンズ
※2026年7月から販売開始予定
880円(税込)



1



2



3

表

裏

オンラインショップ
<https://www.nmwatokyo-shop.org>



ミュージアムショップ公式 Instagram
@nmwatokyo_shop



展示カレンダー [企画展示 / 常設展示] 2026年6月-9月

6月 [Jun.]	7月 [Jul.]	8月 [Aug.]	9月 [Sep.]	10月 [Oct.]
常設展				全館休館 9月24日 [木] ↓ 9月30日 [水]
[小企画展] - 6月21日 [日] アーティスト・バイ・アーティスト - 西洋版画に見る芸術家のイメージ	7月22日 [水] - 9月23日 [水・祝] 特集展示 クロード・モネ没後100周年			
[企画展] - 6月14日 [日] チュルリョーニス展 内なる星図	[小企画展] 6月30日 [火] - 10月12日 [月・祝] 神話、寓意、祝祭 - ルネサンスからバロックにおけるイタリア宮廷と版画			
[企画展] - 6月14日 [日] 北斎 富嶽三十六景 井内コレクションより	[企画展] 7月7日 [火] - 9月23日 [水・祝] 版画家レンブラント 挑戦、継承、インパクト			

[開館時間] 9:30-17:30 (毎週金・土曜日 9:30-20:00) * 入室は閉室の30分前まで

[休館日] 月曜日 (月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館)、展示替期間、年末年始、臨時休館日

[臨時開館・臨時休館等のお知らせ]

臨時開館：8月10日 [月] | 展示替え休館：9月24日 [木] - 9月30日 [水]

[常設展無料観覧日] 6月14日*、7月12日*、8月9日*、9月13日*

(* 当館オフィシャルパートナー・川崎重工工業株式会社の提供による「Kawasaki Free Sunday」(原則毎月第2日曜日))

● 展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式サイトをご確認ください。

[常設展]

国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。

中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。



国立西洋美術館
〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
公式サイト <https://www.nmwa.go.jp/>
お問い合わせ 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

[国立西洋美術館 SNS 公式アカウント]
X・Instagram・YouTube @NMWATokyo
Facebook @NationalMuseumofWesternArt

こちらから
バックナンバーを
読むことができます

Zephyros 96

ゼフェロス第96号 | 編集・発行：国立西洋美術館 / 2026年5月25日 (年3回発行) | 協力：公益財団法人西洋美術振興財団 | デザイン：木村稔将
「ZEPHYROS」(ゼフェロス)はギリシャ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色さまざまな花々を運ぶ春の風をさします。

